



【きゅうくろいわげじゅうたく（きゅうみすまいつこうや）】

旧黒岩家住宅(旧簾舞通行屋)

簾舞通行屋

この建物は、札幌から定山溪を経て有珠に通じる「本願寺道路」が明治4（1871）年に開通したことに伴ない、明治5（1872）年1月、その要所となる簾舞に通行屋（宿泊・休憩所）として建てられた。

当時は往来する旅行者や荷物を運ぶ人馬などかなりの利用客がいたが、明治6（1873）年に千歳を経て室蘭に至る「札幌本道」が完成したあとは本願寺道路を通行する者が次第に減り、簾舞通行屋は明治17（1884）年に廃止された。さらに明治20（1887）年頃、定山溪に通じる新道（本願寺道路の新道、現在の旧国道230号）が開削されると

もに、通行屋屋守であった黒岩家は建物を現在地に移築した。この時に増築され、現在の姿となった。

この建物は黒岩家四代にわたる住宅であり、豊平町役場官吏の出張所、私設教育所（簾舞小学校の前身）などにも利用され、この地区の発展に大きく寄与した。家屋及び土地は黒岩家から札幌市に寄付され、昭和59（1984）～60（1985）年に建物の全解体調査及び復原工事が行われている。

札幌市に残る唯一の通行屋は、最古の開拓農家、さらに開拓使時代初期の家屋構造を今に伝える貴重な遺構である。

移築し新棟増築

創建当時、この建物は現在の正面から左半分のみ姿であった(旧棟)。開拓使事業報告によると、この建物の起工は明治4(1871)年9月、竣工は同5年1月、坪数24.5坪、経費527円32銭9厘となっている。

内部は旧玄関の土間に続き板敷の炉付き広間があり、中廊下を隔てて4つの部屋で構成するなど宿泊機能を考慮した間取りである。また、旧棟におけるキングポスト・トラス(洋風小屋組)の採用は、本道において早い時期のものとして注目されている。

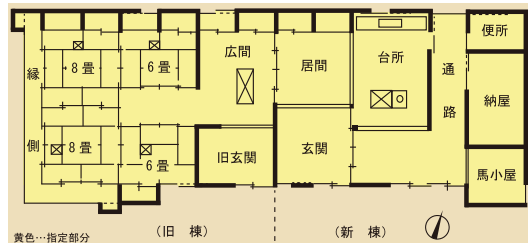
建物の右半分(新棟)は、明治20(1887)年に現在地へ移築したあと増築された部分で、馬小屋、納屋などが設けられており、開拓農家の機能を備えている。新棟は日本古来の建築工法である和風小屋組を採用しており、旧・新棟の境目である居間から見上げると、和洋の小屋組みの接合がわかる。なお、新旧両棟の接合部は、妻壁によって仕切られている。



明治40年、黒岩家住宅前(旧棟)



札幌附近の通行屋等の位置図(明治初期)



札幌附近の通行屋等の位置図(明治初期)

通行屋とは

北海道開拓のために開拓使が主要道路の要所に設置した施設である。早馬の乗り継ぎ場所として、また旅行者や北海道開拓者の宿泊所として利用され、交通事情が悪かった開拓時代にあっては大切な施設であった。

当時、類似施設として「駅通所」があった。通行屋とはほぼ同様の機能を持っていたが、駅通所は郵便の仕事も行ってた。どちらも北海道の開拓に大きな役割を担ったといえる。

簾舞通行屋は小休所、休泊所など様々な名称が使われた。通行屋は簾舞の他にサンタルベツ、アシリベツ、定山溪(明治24(1891)年には駅通所設置)などがあった。

また、明治20(1887)年以前の札幌近郊には島松、札幌、篠路、対雁の各駅通所があった。

概要

- 木造平屋建 切妻屋根
- 桁葎の上にカラーステンレス文字葎
- 床面積 201.612 m²

- **建築年代:** 明治5(1872)年
- **指定年月日:** 昭和59(1984)年3月28日
- **所在地:** 札幌市南区簾舞1条2丁目4-15
- **お問い合わせ:** 現地管理人 ☎ 596-2825
- **観覧形態:** 内部観覧可
- **観覧時間:** 9時00分～16時00分
- **休館日:** 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)
- **観覧料:** 無料
- **アクセス:** じょうてつバス「東簾舞」・「旧簾舞通行屋前」

